

# 病害虫防除技術情報 第2号

富山県農林水産総合技術センター所長

## ネギ軟腐病の発生動向と対策

7月下旬～8月下旬の降水量が多かったことなどから、軟腐病の多発生が懸念される。このため、ほ場の排水と防除対策の徹底が必要である。

1 発生地域: 県下全域

2 発生程度: 多い

3 根拠

(1) 8月下旬(8月23～24日)のネギ病害虫定点調査の結果、軟腐病の発病株率は9.6%で平年(4.4%)より高い(図1)。

(2) 7月23日～8月23日にかけて降雨日が多く、降水量は平年比280%とかなり多かった。

(3) 向こう1か月の降水量は並か多いと予想されており、本病菌の発生に好適な条件になると推測される。

4 防除対策

(1) 多湿ほ場で発生が多いので、排水対策を徹底し、降雨後は速やかに排水する。

(2) 発病株は速やかに抜き取って圃場外に持ち出し、適切に処分する。

(3) 薬剤散布は発生初期の防除に努め、必ず展着剤を加用して、株元まで薬液が十分に付着するよう丁寧に散布する。

表1 軟腐病の主な防除薬剤

薬剤名	使用量または希釈倍数	使用時期／使用回数
オリゼメート粒剤	6kg／10a	土寄せ時(収穫30日前まで)／2回以内
カスミンボルドー	1,000倍	収穫14日前まで／2回以内
バリダシン液剤5	500倍	収穫21日前まで／1回
スターナ水和剤	2,000倍	収穫7日前まで／3回以内

注1) 茎葉散布剤は、土寄せ・風雨前後に散布する。

注2) 特に、収穫前日数に注意して薬剤を選択する。

※農薬散布にあたっては、周辺作物や住宅地等への飛散防止に努めるとともに、農薬の使用回数、使用時期等の基準を遵守する。

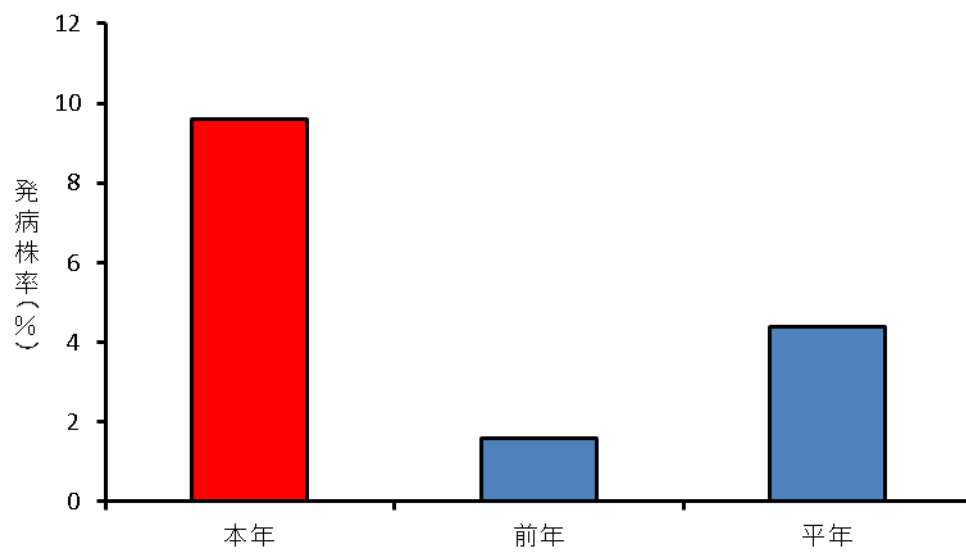


図1 軟腐病の発生状況(8月下旬)



写真:ネギの軟腐病

問合せ先 農業研究所 病理昆虫課  
TEL076-429-5249 FAX076-429-2701